

東近江の未来資本を太らせよう



東近江三方よし基金

# 東近江三方よし基金設立と 東近江市版SIBを通じる 行政の変革

一般財団法人東近江三方よし基金事務局  
滋賀県東近江市市民環境部  
森と水政策課

# 東近江市の時間軸 ー歴史・文化ー

- 縄文時代草創期～現代まで  
遺跡数 514遺跡、指定文化財 325
- 惣村自治  
惣掟による自治の仕組み
- 木地師発祥の地  
轆轤の技術は全国に広がる
- 近江商人発祥の地  
「三方よし」は企業のCSRの原点



## 1. 基金の設立経過

## 2. 東近江市版SIB

# 東近江市の概要

東近江市は里山・里地・里湖がひとつの水系でつながる、  
1,000分の1スケールの日本

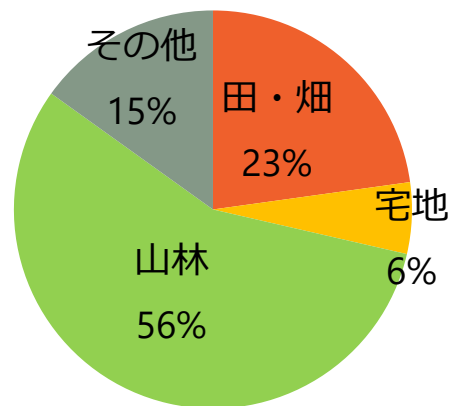
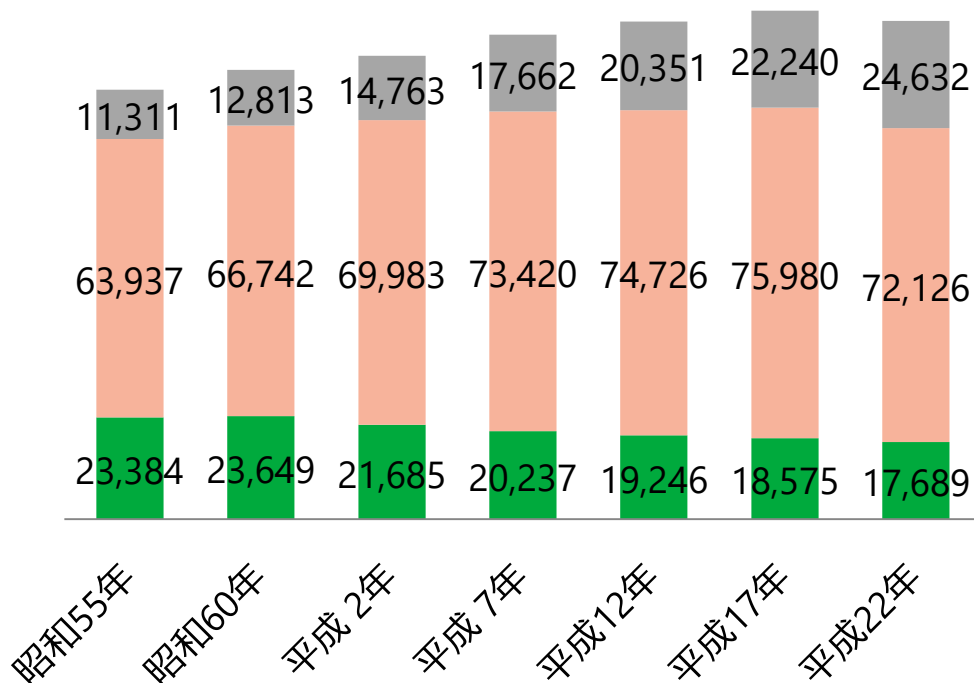
人口：114,935人

平成29年4月1日現在の住民基本台帳人口より

面積：388.37 km<sup>2</sup>

■ 老年 65歳以上 (人)      ■ 生産年齢 15～64歳 (人)

■ 年少 0～14歳 (人)





# 【2010年】東近江市の地域経済循環図

東近江市総生産（/総所得/総支出） 5,459億円【2010年】

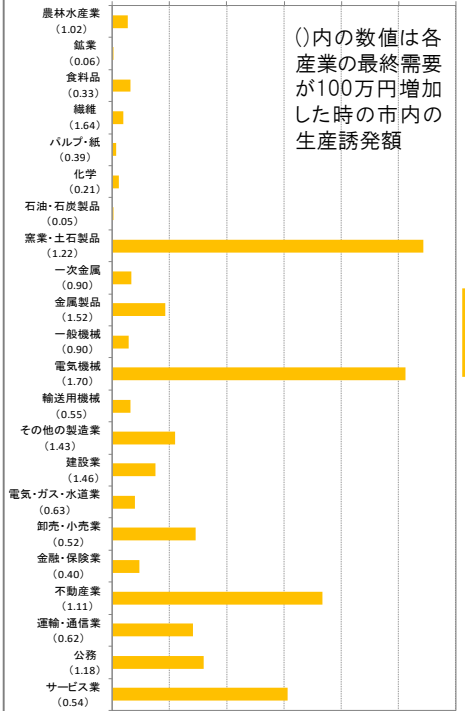
フローの経済循環

生産

産業別付加価値額

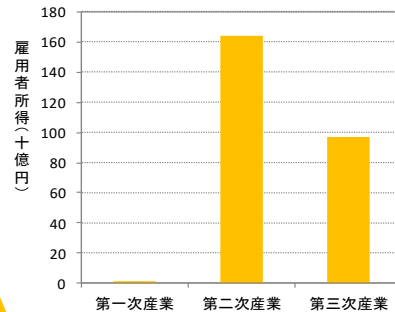
付加価値額(十億円)

( )内の数値は各産業の最終需要が100万円増加した時の市内の生産誘発額

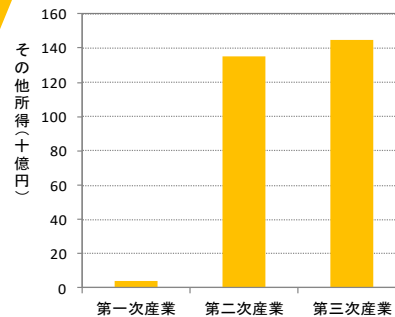


分配

雇用者所得 (2,620億円)



その他所得 (2,840億円)

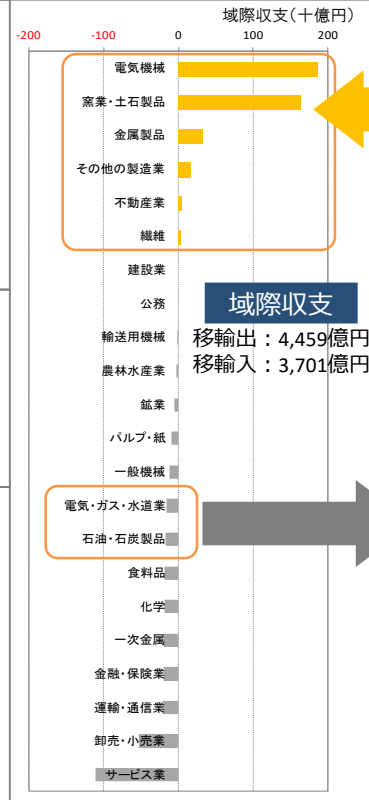


支出

消費  
2,739  
億円

投資  
644  
億円

政府  
支出  
1,080  
億円



域際収支

移輸出：4,459億円  
移輸入：3,701億円

地域外

消費の流出：  
約682億円の流出  
(市民の消費額の約20%)

資金の獲得：  
電気機械、窯業・土石製品、金属製品、その他の製造業等

エネルギー代金の流出：  
約332億円  
石油・石炭製品：約174億円  
電気・ガス：約157億円

投資の流出：  
約0.5億円  
(地域内投資額と地域企業投資額がほぼ同額)

金融機関等

自然資本（環境）

例：森林豊かな鈴鹿山脈、市域の中央を流れ琵琶湖に注ぐ愛知川

人的資本

例：平成17年から22年にかけて人口減少、高齢化の進行

人工資本

例：製造業の集積、近江鉄道、名神高速道路

社会関係資本

例：分野を超えた連携、地域の拠り所事業 など

**H22 市研究会報告 資金調達分科会にて、コミュニティファンドの必要性提案**

**「2030年東近江市の将来像」環境円卓会議にて制作**

**H26 市民協働推進計画にて、コミュニティファンド明文化  
地域経済循環分析実施**

**H27 コミュニティファンド検討会開催（全5回）**

**H28 東近江三方よし基金設立準備会（全6回＋研究会4回）  
第2次環境基本計画検討**

**H29 6月 一般財団法人東近江三方よし基金設立**

**H30 2月 公益認定申請予定**

# 基本財産となる1,000口達成！



# 成果連動補助金改革型 S I B の手法を活用して

～地域的課題を地域の資源を活用し解決しようとする  
取組を市民が温かいお金の流れを通じて支える～





## 分野横断で市民活動を支援

農福連携・空き家活用  
移住定住・中間就労  
資源循環・観光歴史…

- ①多様化する地域の困りごとを
- ②地域資源を生かして
- ③ビジネスの手法で解決する事業者の
- ④スタートを支援する事業

〈平成28年度〉

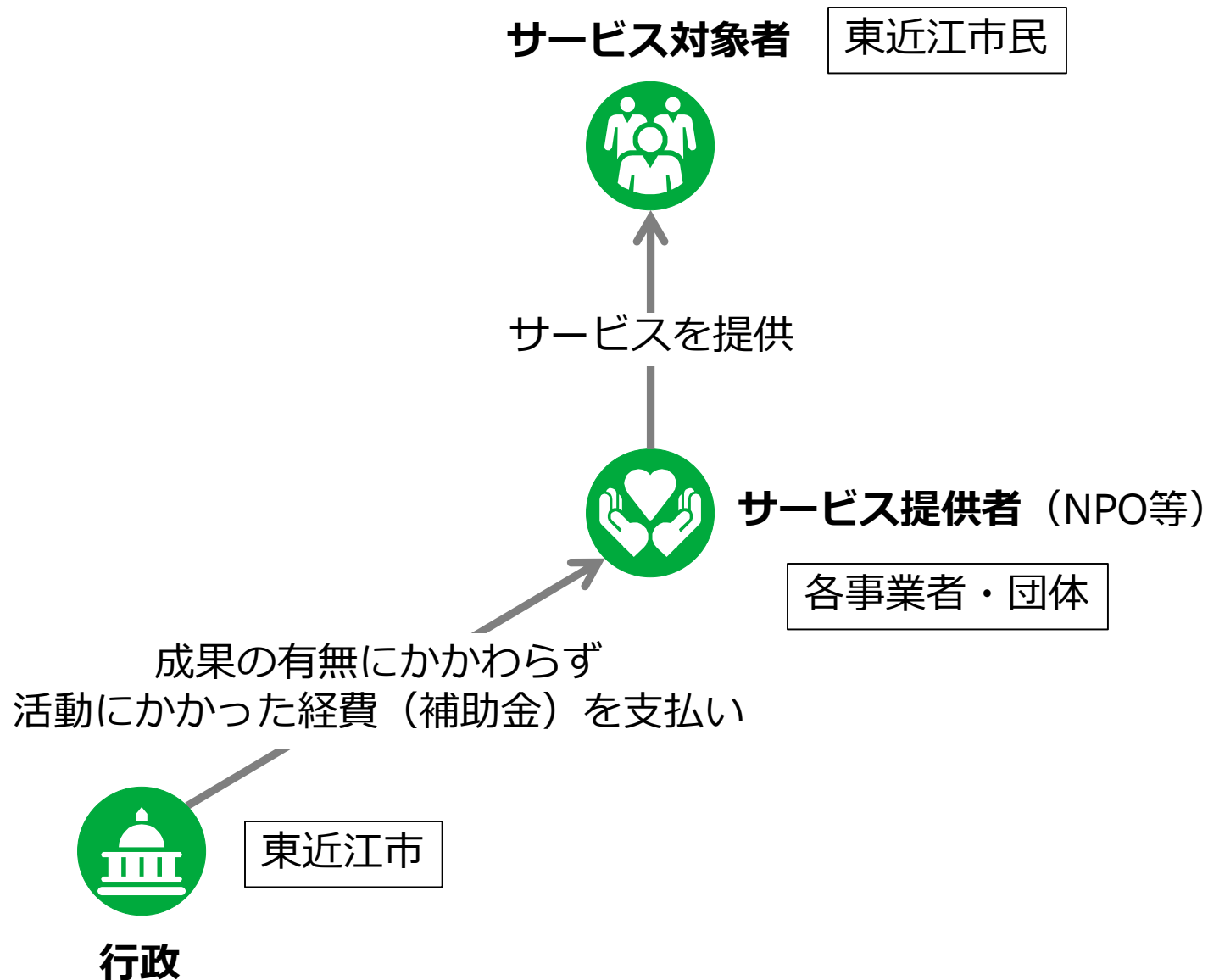
1 団体（事業者）

50万円×4事業

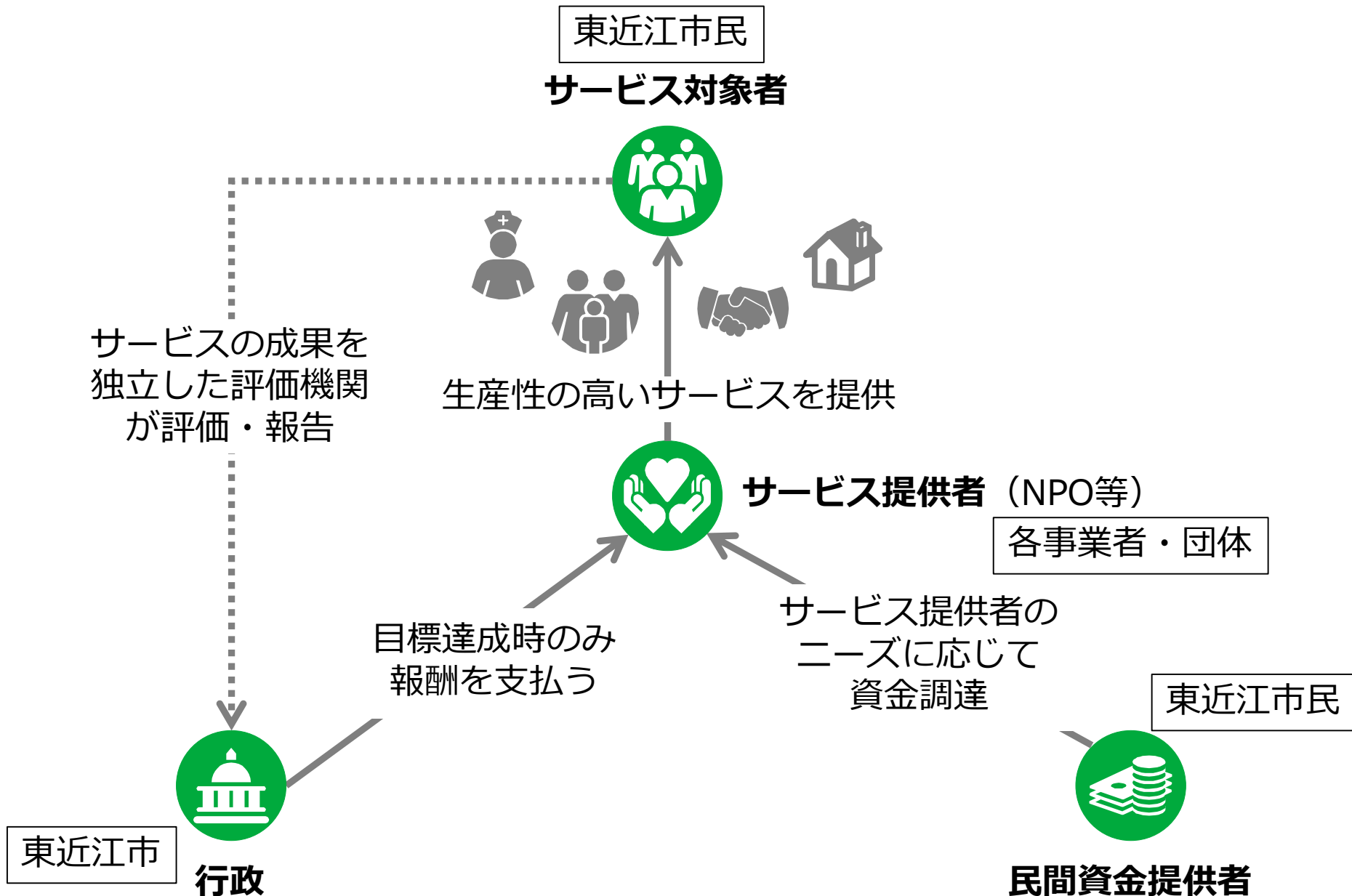
期待される効果・インパクト

- ・地域資源を循環させ、地域課題を解決
- ・他地域、他分野に課題解決のノウハウを応用
- ・地域課題解決にかかる行政コストの削減
- ・地域での雇用の創出

# 従来の補助事業



# 東近江市の仕組み



## がもう夢工房拠点整備事業      がもう夢工房協議会

### 【事業概要】

地域循環型社会をめざしたコミュニティビジネスの拠点整備  
コミュニティカフェ開業、あかねマルシェ開催

### 【平成28年度末の成果目標】

- ・ 夢工房の拠点整備が完成している。
- ・ 事業が開始されている。
- ・ スタッフ雇用が始まっている。
- ・ 夢工房に関わる人が増えている。

### 【平成28年度の達成状況】

H28.9.4 COGAMOカフェオープン  
週5日営業 ランチ～ティータイム  
スタッフ 8名雇用  
着地型観光：ガイド養成





## クミノプロジェクト

クミノ工房



### 【事業概要】

永源寺の杉を活用した木製玩具「クミノ」の製造販売

### 【平成28年度末の成果目標】

- ・マーケティング作業を通じ販売先について具体的な計画ができています。
- ・商品パッケージに関して具体的な展開が決まっている。
- ・森林組合がビジネスパートナーになっている。

### 【平成28年度の達成状況】

滋賀 買うエコ大賞→入賞  
製品の販売開始  
市内保育園への導入決定  
地元森林組合との連携



# 東近江発！新しいせっけんブランドの立ち上げ

～次世代による“第二次せっけん運動”ビジネス化計画～

N P O 法人 愛のまちエコ倶楽部

### 【事業概要】

新・廃食油リサイクル石鹸の商品開発      ブランドデザイン・パッケージのデザイン

### 【平成28年度末の成果目標】

- ・商品パッケージの具体的な展開が決まっている。
- ・試作品が完成している。
- ・試作品のモニターとして100人が使用し、感想や改善点などがまとめられている。
- ・事業体の立ち上げに対して、具体的かつ詳細なプランができていて、立ち上げに展望ができています。

### 【平成28年度の達成状況】

サンプル商品完成（500個）  
モニタリング実施（100名以上）



## ほんなら堂

## あいとうふくしモール運営委員会

### 【事業概要】

地域の困りごと、暮らしの困りごとを地域で解決するしくみづくり  
サポーター養成講座の開催、空き家管理事業の開始

### 【平成28年度末の成果目標】

- ・サポーターの養成講座が行われ、サポーターが5人増えている。
- ・サポーターの交流会を行い、モチベーションを高める。
- ・向こう3年間の経営計画が完成し、4月以降の行動計画が明確になっている。
- ・空き家の管理業務のノウハウを取得でき、具体的な空き家募集が始まっている。

### 【平成28年度の達成状況】

サポーター養成講座、交流会開催  
空き家管理業務開始



## 東近江市版 S I B の特徴

|                                           | これまで                                                                                                | 今回                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東近江市役所の関わり                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政が補助金として採択団体に支出</li><li>・ 行政としてお金をいかに使ったかを重点チェック</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 補助金は当初想定の成果がでたら支出</li><li>・ お金の使い方よりも、中間支援団体と連携しながら成果がでるようにサポート</li></ul>                                         |
| 市民の関わり                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ サービスを受ける側としての関わりのみ</li></ul>                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 応援したい事業に市民が出資 → 成果がでたら利子 + 元本償還（成果がでなければ返還されず）</li><li>・ サービスの受け手としてだけでなく出資者として団体の応援団になってくれる（温かくも厳しい存在）</li></ul> |
| 支援団体の関わり<br>（三方よし基金、株式会社プラスソーシャルインベストメント） | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政事業のため行政から委託された範囲内でのサポート</li></ul>                         | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政・団体との連携で、資金調達、成果を出すために必要なサポートが可能に。</li></ul>                                                                    |

- **補助金改革型**

既存事業を想定し、民間出資で事業を実施したのちに当初の目的の成果が達成されたら行政が予定していた補助金等を出資者に償還する仕組み。

- **施策目的の達成評価**

単年度で予算化されている事業の評価であることから、年度内に到達してほしい目標について行政、専門家、事業者が3者で合意して決定する。

- **自治のあり方を変えるお金の使い方**

民間一社が投資するのではなく、できるだけ多くの市民・企業に資金提供してもらうことで課題の共有やまちづくりへの当事者性を呼び起こす。





事業者：クミノ工房  
井上慎也さん

今回の取組で一番良かったことは、出資者やいろいろな方とつながり、応援していただけたことです。人を紹介してもらったり、助けてもらったりすることは従来の補助金の制度ではできなかったことだと思います。

最初は投資してもらうのもためらいでしたが、自ら出資を募れるくらいでないとだめだと思いました。また、投資していただいた方々の顔も思い浮かぶので、責任感も芽生えました。事業者をやる気にさせてくれる制度だと感じます。



事業者：NPO法人愛の  
まちエコクラブ  
園田由未子さん

社会的なことは行政だけがやるのではなく、NPO等の団体や市民、みんなが一緒にやっていくものだとは常々思っています。

従来の補助金制度では、領収書の確認など形式的な報告書を提出しますが、今回のような形式では、成果を達成すること以外で自由度が高く、事業者を信じて事業資金を託してもらっているため気持ちのいい制度だと感じました。

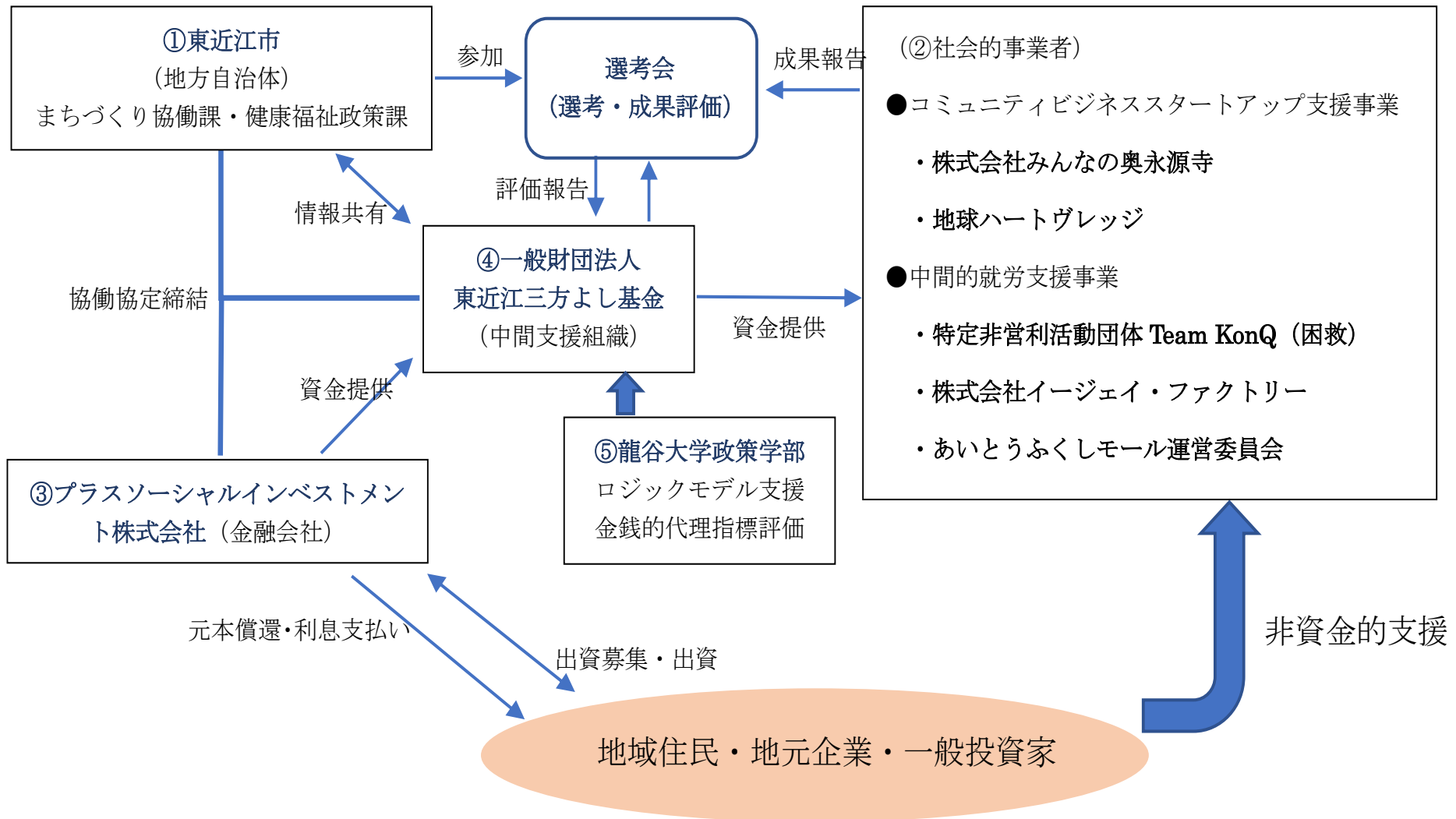
従来の補助金制度では事業者にも何も口出しできませんが、今回のスキームは投資しているから言いやすいです。

投資額は大きくないですが、応援している事業者が成果を出してくれると自分の喜びになります。応援したりアドバイスしたりと、楽しませてもらっています。この地域で若い人たちが活躍してくれることが自分の喜びです。



民間投資者：  
福田純子さん

# H29年度 東近江市版 S I B コンソーシアム



# 平成29年度の主な事業スケジュール

## H29.5 SIBの仕組みの採択・決定

従来の補助金制度から、SIBの仕組みを利用した補助金制度への変更手続き

## H29.7 成果指標の設定

基金が設置する審査会において成果指標を設定

## H29.10 事業資金集め

ファンド、ボンドを組成し募集・販売を実施

## H29.10 出資者向け説明会

出資者向け説明会の開催

## H30.3 事業の評価/出資者へ償還

事業内容の評価を行い、成果指標に達成していれば出資者へ全額償還

※中間での報告会・学習会も開催



## 事業者を応援するファンドの概要

| 項目    | 内訳                                 |
|-------|------------------------------------|
| 募集総額  | 総額250万円（50万円×5団体）                  |
| 1口金額  | 2万円                                |
| 口数    | 総数125口（CB支援50万円×2団体、中間就労50万円×3団体）  |
| 募集期間  | 2017年10月10日(予定)～2017年10月24日        |
| 会計期間  | 2017年10月25日(予定)から2018年2月15日（事業終了日） |
| 目標償還率 | 年利2%(償還時日割り換算)                     |



## コミュニティビジネススタートアップ支援事業



&



東近江三方よし基金

&



PLUS SOCIAL



## 中間的就労支援事業事業





# 基金の活用事例（将来像）

※写真はイメージです！

## <事例1：地域材を活用した商品開発>

地域の木材を活用して、地域の森とつながるおもちゃを製作する事業を始める。木組みの技術を生かした木のおもちゃであり、森林資源の有効活用、中山間地域の仕事の創出を目指した。今後は加工器具の充実を図り、事業を拡大したい。

実施主体：株式会社を設立予定



## <事例2：空き家を活用して地域活性化>

御代参街道沿いの古民家（敷地一体）をリニューアルし、ものづくりの拠点、歴史を学ぶ拠点、アートの拠点、生活支援の拠点、子育ての拠点、等地域活性化の拠点としたい。

実施主体：一般社団法人を設立予定



## <事例3：地域貢献型発電事業>

市内の遊休地を活用し、太陽光発電事業を実施する。必要経費を差し引いた売電益は、コミュニティファンドに寄付する。発電された電気は、自治体PPSなどに売電することで地域の再生可能エネルギー普及にも貢献する。

実施主体：一般社団法人または株式会社



## <事例5：空き店舗を地域活性化拠点に>

コミュニティビジネスの拠点となる空き店舗を改修し、コミュニティカフェを開店。地域のマルシェや観光プランの試行等を企画し運営するまちづくり会社の拠点とする。

実施主体：株式会社等



自然資本  
～森里川湖～

一般財団法人  
東近江三方よし基金

人的資本  
～次世代育成～

社会関係資本  
～人と人のつながり～

人工資本  
～インフラ～

## <事例4：森を生かした次世代育成と生物多様性保全>

市が整備した河辺林をボランティアで整備し、4歳から小学3年までを対象に子供たちの心に種をまく体験活動を提供している。今後、対象年齢、対象地域を増やすにはスタッフの増員・人材育成が必要。イベントは常にキャンセル待ち状態である。

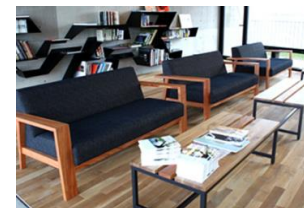
実施主体：NPO法人



## <事例6：広葉樹&針葉樹を活用したブランド家具生産>

地域にある森林資源の付加価値向上のため、ブランド家具として生産・販売する。森林整備と雇用の創出に貢献するため、伐採から木材加工・販売までのサプライチェーンをつなぐ。

実施主体：株式会社、一般社団等



# 人と自然のつながりをベースにした、人と人のつながりの創出 ＝森里川湖のつながりを生かした、分野・世代・地域をこえるつながり創出

- 評価指標、進捗管理  
プランの実現を評価する指標、  
進捗管理の仕組みづくり

- 活動を支えるお金の流れ  
活動を支える東近江ファンド、エコポイント制度、地域商品券、寄付制度など

森里川湖のつながり  
～森おこし・川おこし・湖おこし～



分野・世代・地域のつながり  
～食・エネルギー・ケアの自立～

- 人材育成・次世代育成  
森林整備に従事する人材、農業に携わる人材、環境活動に携わる人材などの育成